

改修工事後の

画像史料解析センター天井について

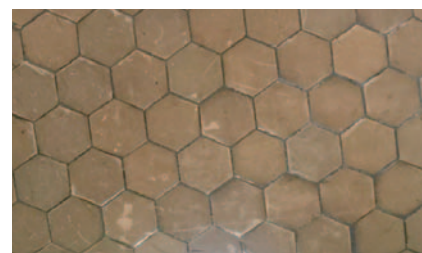
史料編纂所耐震改修ワーキンググループ

史料編纂所を含む、いわゆる図書館団地（総合図書館、教育学部、社会科学研究所、情報学環、明治新聞雑誌文庫、史料編纂所）は、一九二八年に竣工した総合図書館本館をはじめとして、建築から相当の年数を経ていることもあり、二〇一五年度から順次、耐震改修工事を実施することになった。史料編纂所本館は二〇二〇年度から耐震改修工事が開始されることになった

が、編纂事業への影響や費用対効果などの点から、工事に先んじ、本館三階にあったサーバ室を、新館二階演習室に移転することとなった。これに伴い、改修工事後の演習室を本館に移す必要が生じた。面積や利便性の点から、これまで画像史料解析センター（以下、画像センター）が置かれていた本館一階一〇三号室を演習室にあてることとし、画像センターは本館三階三〇五号室に移すこととなった。

改修工事にあたっては、総合図書館をはじめとする図書館団地の歴史的意匠の保存が重視された。本所の改修工事においても、監修を務められた東京大学キヤンパス計画室の川添善行先生（生産技術研究所）の研究室が調査に入られた結果、史料編纂所本館については、総合図書館本館と同時期に竣工しており、内外装に創建エリアと同様の意匠性が保たれていると評価された。なかでも、三階部分に残されていた額縁天井は、度重なる小規模な改修の結果、総合図書館本館などでは、すでに失われていた貴重な遺構であると考え

これを一部でも保存すべきとの結論が出された（なお廊下床タイルについても同様の指摘を得て、これも一部保存を行っている）。これを受けて本部施設部と協議を行った結果、三〇四号室・三〇五号室の天井を創建当時の状態に復元することとなった。その後、工事の進展に伴い、三〇五号室のみに復元施工を行うこととなった。非文献史料の一つとして、竣工なった新画像センターに残されることになった額縁天井を、ぜひご覧いただきたい。



(上) 工事前の状況 (下) 工事後の状況

(参考) 創建期床タイル